

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
20	笹川 朝子（7）	<p>1. 加齢性難聴者の補聴器購入の補助制度について</p> <p>高齢者から「人の言っていることがわからないので誤解が生じてしまう。また、テレビを見ていても理解できないので、ついボリュームを上げてしまう」「出かけて行くのがおっくうになってしまう」「つらい」などの声を聞いています。</p> <p>高齢者は、70歳代では男性は23.7%、女性は10.6%、80歳代では男性は36.5%、女性は28.8%の人が難聴者となつていると言われています。原因は、動脈硬化による血流障害とされていますが、ストレス、睡眠不足、運動不足なども挙げられています。</p> <p>難聴になると家族や友人との会話が少なくなったり、会合や外出の機会が減り、コミュニケーション障害が起こるとされています。</p> <p>厚労省「介護予防マニュアル改訂版（平成24年3月）」でも、高齢者の閉じこもりの要因の1つに聴力の低下を挙げて、対策を求めています。</p> <p>現実には、難聴者の14.4%しか補聴器を所有していないとの統計もあり（日本補聴器工業会調査報告より）、その理由の1つは、補聴器の価格です。補聴器は3万円くらいから30万円以上のももあり、平均価格は15万円と高く手が出せないなどの声が多くあります。補聴器のさらなる普及で、高齢になつても生活の質を落とさず、心身とも健やかに過ごすことができ、認知症の予防については健康寿命の延伸、医療費の抑制にもつながります。</p> <p>加齢性難聴者の補聴器購入に補助制度の導入を求めて、以下質問いたします。</p> <p>(1) 加齢性難聴についてどのように認識しているか。</p> <p>(2) 高齢者に「難聴と補聴器について」等のアンケートを実施することについて</p> <p>(3) 早期の補聴器使用につなげるために早期発見が重要です。そのために聴覚検査を検診メニューに入れることについて</p> <p>(4) 補聴器購入の補助制度の導入について</p>	市長 及び 担当部長